

曹洞俳壇

選・村松五灰子

かりん
檜櫓の実吾にも次郎物語

愛媛県 井上 征郎

評 下村湖人作『次郎物語』（昭和十六年作）は幼い頃里子に出された少年の心の中の葛藤を描き映画にもなった名作。作者の生い立ちにこの小説に重なるものがあるのだろう。実の甘い香りが過去へとつなぐ。

なぐて
蛸を背に山門を出でにけり

神奈川県 小田喜信博

評 昼下がり、蛸の高啼く門。無駄も無く一山（寺）の大きな背景を明快に表現している。

- ◆ 次の世は木になるも良し冬木立 青森県 中田 瑞穂
- ◆ 露けしや晩年の無き兵の墓 山口県 御江やよひ
- ◆ 十六夜や父の遺せし笛を吹く 福島県 佐藤 宣夫
- ◆ 瀬祭忌キャッチボールを日暮まで 静岡県 村松 保子
- ◆ 警策のしじまやぶりぬ秋の夜 神奈川県 池亀 恵子
- ◆ 二人分連休明けの栗むすび 東京都 伊奈 三郎
- ◆ 運動会優勝の子とハイタッチ 福島県 大槻 弘
- ◆ 江ノ電のとまる駅舎の曼珠沙華 東京都 野村 信廣
- ◆ 庭石の濡れて色濃き冬の雨 千葉県 鈴木 英子
- ◆ 菊の供華父の好みし花知らず 東京都 長谷川 瞳

*選者吟

竹馬に自信今でも乗れるはず

五灰子

*作句小見

明けましておめでとうございます。

「一年を顧みるは元旦にあり」と、いつか『禪の友』に載っていました。俳句もまた振り返り、客観写生に位置を正して精進したいと思います。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

夏の雨先ず石路に一つ落ちやがて雨中の津
和野となりぬ

島根県 横山 豪吾

評 一滴の雨の雫から一氣に津和野の大きな風景に運ぶ歌の言葉の力。夏の雨であればこそその勢いであろう。「やがて」の間合いも良いし、「石路」と津和野のひびきあう語感にも弾みがある。

眼を凝らし針孔とらまえ糸通すふふんと笑
い雑巾を縫う

秋田県 小松 紀子

評 針孔に糸を通すのが何でもなく出来てしまう年齢では詠めない歌で、老眼を意識するようになればこそその「ふふんと笑い」なのだ。その機微をうまく伝えている。

◆ 行く夏を風にまかせて一本のひまわりゆると四辻に咲く
◆ いくつかの保留を抱え歩みたり足腰強きオトナとなりて

宮城県 須藤智恵子
静岡県 小原 温子

◆ 方丈の白足袋光る畳の上音なき音に耳すましをり

山梨県 北村 富子

◆ 歳経れば子に従えと友は言うひとまずわれは妻に従う

福島県 大槻 弘

◆ 鮮魚台鯛に鰹に蛸に烏賊空を占めたる鯛雲群

三重県 山下 利夫

◆ 紙芝居に昔の子供ら集いたりみず飴原っぱあの日に返る

宮城県 小田島麻利

◆ すでに他人の住むわが家に集いいる人みな若し明け方の夢

兵庫県 前田あつ子

◆ 胸中に雪雲ふわり湧きあがる逢いたさは君を呼ぶ声となる

青森県 中田 瑞穂

◆ 振り向いてまた振り向いて土手をゆく真白き猫が気にな

東京都 野村 信廣

◆ この花に南無と付けたき曼珠沙華彼岸に逢わむと来る緋衣で

三重県 小阪 晋

*選者詠

起き上がり小法師がふたつ耳にいてくじけ
そうなるとき叱るなり

ちづ

*作歌小見

今月の皆様の投稿歌は余裕をもって身辺を捉える作品が多く楽しませていただきました。ユーモアは人生の潤滑油、詩心も心のゆとりからこそ生まれるように思います。山下さんの魚尽し、空に昇ったところが爽やかです。

ご本山だより



大本山永平寺



寿餅じゅびょう飜ふざん経

あけましておめでとうございます。

念頭にあたり皆さまのご多幸をご祈念いたします。

永平寺の元旦は、早朝三時、起床の合図である振鈴の音とともに始まります。坐禅、朝課を勤め、歳朝人事さいちようじんじ行礼という古式に則った新年を祝う挨拶など歳旦の諸行事を行います。その後、典座寮（お台所）から修行僧全員に、心を込めてつくられたおせち料理が配られ、お雑煮も振る舞われて、永平寺でお正月を迎えた喜びを実感いたします。

そのほかに、正月三が日の行事として「寿餅飜経」がございます。寿餅とは、お師匠さまにお贈りするお餅のことです。

「奉請・龍天護法大善神・白山妙理大権現」と書かれた軸を掛け、その前にお飾りされた袈裟けさ行李ぎょうりを置き、お供え餅を飾り「般若心経・消災咒しょうさいしゅう」を読経いたし、心を込めてお師匠さまの今年一年の法身堅固、福寿無量、諸縁吉祥を三が日お祈りするのです。この寿餅を細かくし、その一片と年賀状を添えて、正月四日にお師匠さまへとお贈りするのです。

このようにして修行僧たちは、一年の始まりに心を新たにし、ここ永平寺で修行させて頂けることに感謝いたし励んでいくのです。

ご本山だより



大本山總持寺



改歳かいさい

新春を迎えました。皆さまにとりまして善き一年となりますよう謹んで祈念申し上げます。

總持寺では大梵鐘の撞き初めを皮切りに新年が始まり、初詣の期間中は毎年三十万人以上の人が訪れます。

特に、今春から初詣参拝者を受け入れる内容が大きく変更いたしました。従来は大黒尊天（香積台）だいしやくてん さんしよくたい、三宝殿など、それぞれの場所^{ごきやう}で御祈禱^{ごきやう}を行いましたが、本年は大祖堂^{だいそどう}での御祈禱に一本化したしました。

具体的には、大晦日の晩に三宝殿より大祖堂へ三宝荒神^{さんぼうこうじん}さまを御遷座^{ごせんざ}し、江川^{えがわ}禪師^{ぜんじ}さま御親修^{ごしんしゆ}にて「元朝大祈禱^{げんちやうだいきと}」が行われます。

初詣参拝者は唐門を通じて仏殿へお参りし、続いて大祖堂での大祈禱や新年行持となります。大祖堂の入り口正面にテントを幾張りも設け、御祈禱の受け付けやお札・縁起物の頒布を行います。

十日過ぎに正月行持が一段落すると、「冬安居^{とうあんこ}」と称される百日間の集中修行が解制^{かいせい}（終了）となります。冬の厳しい修行を成し遂げた修行僧たちの明るい表情が印象的です。

昨年は、お陰さまにて二祖峨山^{がせん}禪師さま六百五十回大遠忌が無事円成いたしました。歳が改まり、心新たに平成三十六年の太祖瑩山禪師さま七百回大遠忌に向け、歩みを進めてまいります。